

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0870102324		
法人名	株式会社 いっしん館		
事業所名	グループホーム いっしん館 内原		
所在地	茨城県水戸市杉崎町195-1		
自己評価作成日	平成21年7月7日	評価結果市町村受理日	平成22年6月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 認知症ケア研究所		
所在地	茨城県水戸市酒門町4637-2		
訪問調査日	平成21年7月27日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・入居者様それぞれのこれまでの生活や好み・得意分野などを活かしながら、少しでも家族に近い形での介助やケアを行う事を法人内での統一意識としてもっている為、日常生活内の常識や当たり前を事業所内での日々の入居者様との関わりの中でも統一意識を持ってケアに当たっている。  
 ・年に1回の法人全体の1泊の温泉旅行夏祭りを合同で行ったり、日常的にも法人内の他事業所との関わりを持つことで入居者様自体の交流や施設外の関わりが図れること。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは水田に囲まれるのかな雰囲気があり、また館長が目指している「元気で明るい」環境を肌で感じる事ができた。職員は、利用者の持てる力を最大限に発揮できるような働きかけを心がけ、言葉かけも配慮させている。その環境の中、のんびりと寛ぐ利用者の姿が印象的なホームであった。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	近隣や地域の方との交流を大切に、グループホームという場所を理解していただけるよう、自然な形の交流を目指しての理念を管理者・職員共に検討したものを掲げている。	法人の基本理念を基に、内原館独自の理念を掲げ、地域との交流を大切にしていけるよう取り組んでいる。また、職員それぞれが理念を日々振り返りながら実践に向けて取り組んでいる様子がうかがえた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	館内行事などに子供会や地域のボランティアの方を招待したり、日常的に近所の散歩や近隣の食堂などでの外食のレクリエーションを行ったりして、無理のない自然な形で入居者様と一緒に地域との交流を図るように努めている。また、2ヶ月に1度の地域運営推進会議を定期的開催し、情報交換を行い地域交流に努めている。	地区代表者から地域のボランティア団体を紹介され、定期的な訪問がある。近隣の住民との日常的な挨拶や立ち寄りてもらえるような言葉かけも行なっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域住民代表の方より、地域での会合や行事の時に参加のお声掛けを頂ける為、その際には積極的に参加しグループホームや認知症についての現状や様子などの情報を公開・交換を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域住民の方にも参加の依頼を行い、2ヶ月に1回の地域運営推進会議の開催にご協力を頂いている。また、その中で地域での行事へのお誘いやお声掛けを頂いたり、日頃の報告や相談などへのご意見を頂き、全スタッフにてサービスの改善・向上に活かしている。	会議を行う上での理解や協力も得られており、話し合いの結果、消防訓練を近隣住民と一緒にこなうことができた	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護保険申請や生活保護受給者の方の処理などで市町村との連携を図る際は可能な限り直接市役所へ届けるようにし、情報交換が行いやすい環境作りや関係作りに努めている。また、小学校の運動会参加や中学校の職場体験の受け入れ等を行い、市町村や地域との関係作りに努めている。	水戸市の担当との連携を図れるよう、日頃から取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄間の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	禁止の対象となる身体拘束の行為はもちろん、施設や声掛けなどの精神的な拘束などのについても全スタッフが「拘束がない事が当たり前」と理解し毎日のケアに当たっている。また日常的にその行為の裏にある入居者様の気持ちを考えケアをしている。	施設や身体拘束の行為が利用者にも与える影響を理解しケアにあたっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部の研修への参加などで虐待について学ぶ機会を設けている。また、日常的に入居者様に対して1人の人生の先輩として敬意を払いケアに携わっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている方がいらっしゃるので関係を密にする事で他入居者様にも必要である場合には支援できるようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約やその解約などの時には十分に説明を行うことはもちろん、解約の可能性がある時点での事前の説明も充分に行うように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約書書面の中に苦情の際の連絡先として事業所・本社・外部(市町村)を提示している。また、苦情発生時には『即実行』で対応し、その後の運営に反映している。	意見箱の設置はもちろん、普段から家族とのコミュニケーションを大切に考えて実行している。	今後は、現在の取り組みを継続しながら更に、家族・利用者の意見や要望を引き出すための取り組みを期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1度の会社全体での会議の内容をDVDにし、全スタッフが回覧し意見や感想を責任者へ提出する事になっている。また全体会議の後にグループミーティングを行い、各事業所ごとに意見や要望を話し合い情報交換をする場を設けている。また事業所ごとにも月1回の事業所全体での会議を行い、全スタッフが意見を言い話し合える場を設け、それらの中で出た意見を現場運営に反映している。	ミーティングだけではなく、普段の勤務のなかからも意見が聞けるよう心がけている。また、職員を見守りながら自由に仕事ができる環境づくりに努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	定期的に全事業所の会議に参加している。努力・やる気・実績に応じた環境や役割を与え、スタッフが各自向上心を持って仕事に取り組めるように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に(3ヶ月に1度)外部から講師を招き会社全体での勉強会・講習会を実施している。また、各スタッフの段階に応じた外部研修への参加の推進に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	会社全体で質の向上に向けてスタッフ間の交流の機会を作っている。月に1度、管理者の会議・役職者の会議・男性スタッフの会議等を設定している。また月に2日のペースで他事業所への交換研修を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の悩み事などに十分に耳を傾け傾聴し、ご本人にとって最善の対応が出来るようご本人の意見や考えを尊重し、関わるスタッフで検討し実施するよう努めている。また不安などの訴えの際にはご本人が納得いくまで1対1で十分に話をするように努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に至るまでにご家族やご本人からの要望は細かく頂き、コミュニケーションを密に図るよう努力し努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス利用の際には、事前にご本人と直接会う機会を面接として設けさせて頂き、その中でご本人の状況がグループホームに適しているのか等を見極め、他のサービスが必要な場合にはご家族様と相談し支援している。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者様と職員と一緒に楽しんで生活できるよう、畑仕事や園芸・裁縫など得意だったことを教えて頂いたりしている。また、食事やおやつ等の際は職員も一緒に食卓を囲み同じ物を同じ時に食べている。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや一泊旅行等の行事ごとの際には、参加して頂けるよう声かけやお誘いを行っている。また、月に1度はご本人の状況と写真を付けたお便りをご家族様宛に発送している。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様や親族様はもちろん、ご本人の友人等にもご本人の要望があれば手紙を出させて頂いたり、連絡を取らせて頂いている。また、面会などの要望がある時には積極的に受け入れを行っている。	近隣の利用者の囚人が気軽に立ち寄れるように配慮し、実際に訪ねてくれることがある。また、遠方の家族など利用者と共に過ごしたい希望があれば宿泊も可能な環境となっている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様がお互いに話をし易いように話題の提供を行ったり、環境を整えるよう支援している。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	当事業所のグループ内には、グループホーム・有料老人ホーム・高齢者専用賃貸住宅と3つのサービスの種類がある為、ご本人の事情にもよるが、退居になることになっても、その後も相談に応じ状況に合わせてフォローアップを行っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中での気づきを記録やミーティングなどを用いて、職員間で共有し、入居者様本意のケアができるよう努めている。	今までの生活歴や情報を家族から得ていくことと、ホームでの生活の様子などからも利用者の意向を把握するよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	当事業所でのサービス開始前の情報だけでなく、日々の様子や会話の中でご本人の認識している生活層や好みなどを把握し、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人のケース記録や職員間での申し送り帳や業務日誌を活用し、日々の一人一人の情報の共有を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族様の意向も取り入れより良い生活が出来るよう努めている。主治医や看護師・栄養士などの専門的な部分は連携を図り、モニタリング・アセスメントを充分に行い作成している。	利用者・家族からの情報と、利用者個々の担当職員が集めた情報を基にセンター方式のシートを活用し、介護計画作成が行なわれている。また、モニタリングも定期的に行なわれているが、書式を整備している最中である。	日々の記録を介護計画と連動させることにより、モニタリングを更に充実させていけることを期待したい。また、シートの活用法を再検討していくことで、より経過が見えるものとなるよう期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のご本人への気づきを記録で情報共有を行うと共に、月1度は必ず話し合いの場を設けケア・計画の見直しを行っている。また、日々の中での状況の変化はその都度介護計画に組み込むようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	当事業所のグループ内には、グループホーム・有料老人ホーム・高齢者専用賃貸住宅と3つのサービスの種類がある為、ご本人の状況に合わせて対応できるような仕組みになっている。また、医療機関との連携も24時間対応となっている為、状況に応じた対応を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティア団体の受け入れや、実習生の受け入れも積極的に行っている。また、入居者様の日常生活の中でも、地域のスーパーに買い物に行ったり、外食に行ったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族様の希望に応じた医療機関にかかれるよう支援している。主治医からの紹介状等の連携も支援している。	近隣の医療機関との連携を密にしており、緊急時の入院等もできるよう整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活の中での変化や気づきに対して、看護士との連携を密に図っている為、その場で解決できる仕組みをとっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	定期的な面会と担当医師や看護士からの病状説明を積極的にお願ひし、早期退院に向けて連携を密に図っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人の体調の変化や状況など変化があった場合には、その都度ご家族様に連絡を取って相談を密にしている。その中でのご家族やご本人の要望を出来る限り取り入れ介護計画に取り入れている。	現在までに見取りをホームで行なった事例はなく、今後は協力病院との連携を図りながら、利用者・家族の意向と合わせてケアを進めていく方針である。	ホームの指針を明確にし、同意書や緊急時の対応等についての書式を再検討し、受け入れ態勢の準備を行うことが望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急処置ができるようマニュアルや薬箱を常備している。また全職員が救命救急を定期的に受講している。新入社員に対しては、新人研修に救命救急の受講も取り入れている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な消防訓練を実施し、夜間を想定した訓練も行い、全職員が緊急時に対応できるようにしている。	消防署立会いのものでの訓練と共に、夜間想定訓練を行なっている。また、年々非難時間が短縮されている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレや入浴などの声掛けの際には、周囲の状況によって対応を変え、ご本人の尊厳を守れるよう配慮している。	利用者個々にあった呼び方や話し方言葉のかけ方を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常的にコミュニケーションを密に図るようにし、その中で自然な形でご本人の考えや希望などを聞けるよう配慮している。また、返答が難しい入居者様に対しては、答えやすいよう選択肢をあげている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事やトイレ・入浴の時間を固定せず、その人やその日の状況に合わせたケアをしている。また、要望があれば即日外食やカラオケなどを楽しめるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	移動理容室があり、そこで要望がある方は、希望の髪形・髪色にしている。お祭りやお出かけの時には浴衣を着たりお化粧をしたりして楽しんでもらえるよう支援している。洋服の購入などはご本人と一緒に買い物をするようにしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニュー作成時には、入居者様の要望や季節感があるものを取り入れるようにしている。職員の中に栄養士の資格保持者がいる為、栄養士にてメニュー作成の決済を行っている。	職員と利用者が一緒に手作りで温かい食事を取っており、食事の援助の方法にも工夫がされていた。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人の水分摂取量は記録している。また栄養士にアドバイスもらいながら個人個人にあった食事からのケアを行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、入居者様個人に合わせた口腔ケアを行っている。義歯の利用者の関しては夜間は職員にて預かり消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個人個人の排泄パターンを把握し、その人にあったトイレ誘導等の排泄介助が出来るよう支援している。	利用者の持てる力を活かしてもらえよう、パットを使用しても本人に交換してもらうなど、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便を記録し、排便の周期や便秘の状況などを把握し、必要であれば主治医の指示を仰ぎ下剤などでの排便コントロールも行っている。また、日常的に水分や食材などで工夫もし、対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間は、決めていない為、入居者様のその日の気分や体調に合わせて要望に応じて対応している。	日常生活の一部としての入浴を意識しており、夜間の入浴にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	くつろげる空間を複数箇所設けている為、一人一人がその日の状況によって休息できるよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の内服薬の説明をいつでも見れる場所へ配置し、職員が周知できるようにしている。また処方薬の変更時には、申し送り帳を活用して全職員に周知徹底を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴やご本人の性格・意欲に合わせてご本人の出来ることを役割とし、畑仕事や洗濯たみ、台所の手伝いなどをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望や要望があった際には、即日であっても散歩や外出・外食にでかけている。計画的に月に1回は外食や行事ごとを計画している。また個人の希望がある場合には、個人レクとして外出もしている。	ドライブや散歩、庭(畑)への外出はいつでもできるように支援している。また、1泊旅行も企画させ、利用者も楽しみにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には、金銭管理や金銭の所持はしないようにしてもらっているが、個人の要望によって一緒に買い物へ行き買いたい物を購入できるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の郵送などは、自由に利用は可能にしている。またご本人宛にご家族やご友人が関わって下さった時には、お礼状を書いて出している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関やホール、居室などに清掃・清潔は心掛けている。また季節感を感じられるようにホールや玄関に花や季節感のある装飾を行っている。	清潔感がある共用空間があり、ソファで休む利用者の姿があった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、ソファやテーブルを置き、和室には座椅子やTV・カラオケ器具などを置き入居者が好きな時に好きな所でくつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様ご本人が居心地良く過ごして頂けるように、使い慣れた家具の持ち込みなどご家族様と相談し、入居者様個人の居室作りに努めている。	リユースや本人が大切にしてきた物や趣味のものがあり、個性を尊重している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している	建物内は、全体的にバリアフリー構造になっている。ホール内・階段などにも手すりを設置している。整理整頓に心掛け事故の原因になるような物は置かないようにしている。		

## 目標達成計画

作成日：平成 22 年 6 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	10	運営に関する利用者、家族等意見の反映	意見箱の設置はもちろん、普段から家族との交流、連絡を密にする。	面会時話合いの場を作り交流を深める。苦情があった際は、電話ではなく直接逢って話しをする。	即
2	26	日々の記録とケアプランが連動していない	カーデックスにケアプランを入れ、記録と連動させる	シートの活用、ケアプランに細かく記入し、ケース記録の記入	6ヶ月
3	33	ホームの方針を明確にし、同意書や緊急時の対応等についての書式を再検討、受け入れ態勢の見直し	ホームの方針を明確にし、同意書や緊急時の対応等についての書式を再検討、受け入れ態勢の見直しをする	緊急時の対応の書式の変更	0, 5ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。